

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市R657

TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

バックナンバーは
HPから見られます→



自然環境保全センターの野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

野外施設トピックス (1月5日～3月15日)

日付	場所	できごと
1月6日	野外施設全域	今季初の積雪 午前中から雪が降り始め、自然観察園では約5cmの積雪となりました その後も気温の低い日が続き、池の氷は厚さ6cmほどに成長！
2月11日	Y22池	ヤマアカガエルの卵塊初認 久しぶりの雨が降った後、ひっそりと産んで ありました。寒さや乾燥が続いた影響か、 去年より約2週間遅れ、大規模なカエル合 戦も見られませんでした
3月3日	谷戸	ウグイスさえずり初認
3月15日	本館横の 人工池	アズマヒキガエルの卵塊初認 その後も数日カエル合戦が続きました



雪景色の自然観察園(1月7日撮影)

冬のガイドウォーク ～土壌動物の世界～

1月に実施したガイドウォークでは、雑木林の中で、落枝、倒木などの朽木や落ち葉の下にひそむ土壌動物を観察しました。朽木をひっくり返すと、そこには不思議な形や模様の小さな生き物たちの世界が広がっていました。越冬中のコクワガタの成虫やムカデやヤスデ、ワラジムシなどの多足類、ルーペで見なければ虫とはわからないほど小さなトビムシの仲間など、じっくり見ると実にバラエティー豊かです。

雑木林で見つけた土壌動物たち



コクワガタ



デオキノコムシの仲間



ムカデの仲間



タマヤスデの仲間



フジヤスデの仲間



ワラジムシの仲間



アカイボトビムシの仲間



マルトビムシの仲間



ミドリバヤスデ



マクラギヤスデ

<土壌動物の役割>

落ち葉などの下にいる生き物の多くは、植物や動物の死骸を食べ
て生活しています。ワラジムシやヤスデなどが食べて小さくなった
落ち葉は、より小さなダニやトビムシの仲間によってさらに細か
くなっていき、さらに菌類などの微生物によって分解されます。

堆積している落ち葉などを見てみると、下に行くほど崩れて細か
くなっていたり、木の枝がスカスカになっていて、土壌動物たちが
落ち葉の分解、そして豊かな土壌をつくるのに一役買っていること
を実感することができます。



クワガタの産卵痕
幼虫は倒木や落ち葉を食べて育つ

<観察するときのポイント>

土壌動物は地面でじっとしているので、堆積物をどかすと簡単に
観察できます。林の朽木や落ち葉が集まっているところだけでなく
家の庭の石や植木鉢の下でも見つかります。小さなものが多いので
ルーペを使って形や模様などを観察してみてください。ムカデなど
毒をもつ生物がいる場合もあるので、手袋をして少しずつ落ち葉な
どをよけ、毒があるかわからないものは素手で触らないように気を
付けましょう。そして、観察が終わったら、生き物も動かした木や
石などももとの位置に戻すことも忘れずに。



カワラタケ
枯れ木について分解するキノコ

今回はあえて、生き物の気配を感じにくい冬に観察を試みた結果
とても多様な土壌動物を観察することができました。土壌動物探し
は冬ならではの一面もあるかもしれませんが、もともと朽木な
どのが好きな生き物たちなのか、
それとも春を待つために居心地の良い朽木の下などで冬を耐えている生
き物たちなのかなど、その生き物た
ちは普段どんな生活をしているのか
を考えながら探すより楽しめそう
です。季節や環境を変えて、普段何
気なく通り過ぎている場所でも試し
てみてください。



こういうところ、なにかいそう…



そっと朽木をどかしてみよう

「お花見」だけではもったいない！ サクラの観察

そろそろサクラの開花が話題にあがる季節です。お花見の対象になるのは染井吉野が代表的ですが、野
外施設には現在野生種、栽培品種合わせて37種類のサクラがあり、すでに満開になっているものもあり
ます。「花より団子」もよいですが、観察ガイドを参考に、それぞれの特徴や人との関わり、生き物との
関わりに注目してください。

たくさんの種類があるサクラですが、大きく分けて葉が出る前に花が咲くものと、葉が開くのと同時に
花が咲くものがあります。葉が出る前に花が咲くのはエドヒガン、葉と同時に花が咲くのはヤマザクラや
オオシマザクラなどの野生種の性質を受け継いでいます。

特にオオシマザクラは病害虫に強く、多くの栽培品種が作出されています。オオシマザクラを中心にヤ
マザクラなどとの交配により作出された栽培品種は総称としてサトザクラと呼ばれます。

花の時期に関わりの強い生き物といえば、やはり花粉を媒介する鳥類です。いつもヒヨドリやメジロで
にぎわっていて、細長いくちばし
で器用に蜜を吸う姿が見られます。
その他にも鳥や昆虫など、さまざ
まな生き物がサクラを利用してい
るはず。どんな生き物が来る
か花を楽しみながらのんびり観察
しませんか？



左：寒桜(3月16日撮影)
右：桜の花にやってきたメジロ



傷病鳥獣救護の情報



救護の情報は
HPから見られます

自然環境保全センターでは、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を收容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年（1978年）から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

●●● 2021年10月～12月の報告 ●●●

救護実績

【救護件数上位種】		【主な救護原因】		哺乳類の原因	
種名	件数	鳥類の原因	件数	哺乳類の原因	件数
キジバト	13	ガラス窓などへの衝突	15	交通事故	5
オオバン	6	ネコなどに襲われる	10	疥癬症(かいせんしょう)	1
スズメ	6	粘着剤に絡む	4		
タヌキ	6	交通事故	2		
ヒヨドリ	5	釣り針・釣り糸や有刺鉄線に絡む	2		

トラ模様の鳥が持ち込まれました！

救護から受け入れまでの様子

道路上でうずくまっていたところを救護されたのですが、左首から左肩にかけて皮フが大きく裂けて筋肉や内臓が見えていました（黄色矢印↓）。呼吸するのも苦しそうで、口を開けて必死に耐えている様子でした。さらに、右眼珠は内出血で赤くなり、左眼は突き出して腫れていて重症でした。



口を開け呼吸が苦しそうな様子（2021年12月27日撮影）

受付No. 210251
種名 トラツグミ（ヒタキ科）
受入日 2021年12月21日
救護場所 川崎市麻生区
救護原因 ネコなどに襲われた疑い
状態 首から左肩にかけて皮フ裂傷、右眼内出血、左眼突出

治療とケア

呼吸が少しでも楽になるように大きく裂けた皮フを縫い、投薬などの治療を続けました。持ち込まれた時から痩せていたのですが、151.5gあった体重は、140.0g、136.0gと減り続け、自力で食べることもできないので毎日2回～3回に分けて流動食を与えて、暖かい部屋で安静を保ちました。



本来は黒い眼が赤く内出血している（2021年12月27日撮影）

そして……

懸命に治療を施しましたが、残念ながら2022年1月7日（1075g）に亡くなりました。

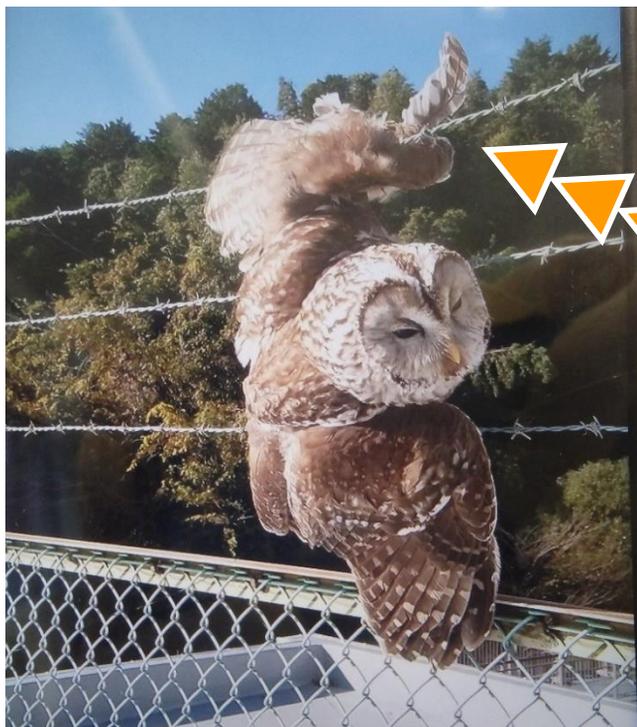
トラツグミってどんな鳥？

好きな場所：留鳥で平地から山地の暗い森林内
好きな食べ物：ミミズや昆虫、木の实など
大きさ：ハトよりやや小さい
(全長約29.5cm)

県RDB*

繁殖期は減少種で、森林伐採や住宅開発により生息地の減少が心配されている

*神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006 P258(抜粋)



発見時の事故現場 (2021年12月3日 救護者による撮影)

● 受付No.	210236
● 種名	フクロウ (フクロウ科)
● 受入日	2021年12月3日
● 救護場所	愛川町内
● 救護原因	有刺鉄線に絡む
● 状態	有刺鉄線に左翼が絡まっていた

発見時の様子

左の写真は、発見時に救護者によって撮影された事故現場の様子です。遠くから見て、何かがひっかかっている？と、近くまで来てみるとフクロウだったので驚いたそうです。

有刺鉄線に左翼だけが絡んでいて、すべての体重が左翼にかかった状態でした。写真のフクロウの表情は、なんとも言えません。

すぐに一番上の線を切って保護し、有刺鉄線がついたまま持ち込まれました。

ケガの状態が気になります。



左翼に有刺鉄線が巻き付いた状態 (2021年12月3日撮影)

受け入れ時の様子

有刺鉄線は、名前から想像がつくように針状のトゲがある鉄線です。このトゲに左翼が絡まった状態でしたが、幸い骨折などの大きなケガはありませんでした。

処置で羽を強引に抜くと新しい羽が生えてこなくなることがあります。フクロウにとって羽はとても大切なので、羽を傷めないように気をつけながら慎重に絡まった羽をはずしました。処置の間は、威嚇や抵抗をすることがなかったので、衰弱していたのでしょうか。

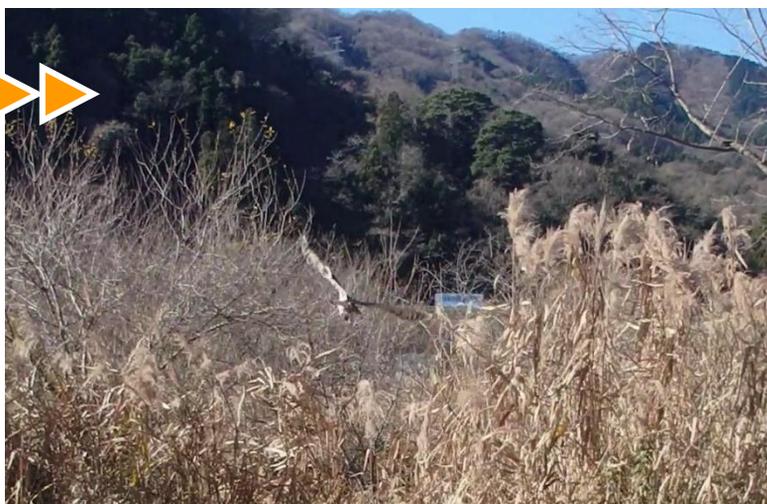
元気になれるといいのですが……。

翼を広げて！

好物のネズミを食べるとすぐに元気になり、飛ぶためのリハビリをして2021年12月18日に力強く野生復帰しました！



放野直前の様子 (2021年12月18日撮影)



放野直後の様子 (2021年12月18日撮影)

フクロウの鋭いクチバシと爪にはご注意ください!!

